

We Love ちいき



地域医療支援学レター / 2019.7 / vol.28



専攻医の集い



地域医療セミナー



新入生説明会

活動報告

地域医療支援学講座の
主な取り組み報告

リレートーク第28回

医師の使命

益田赤十字病院
院長 木谷 光博 先生

4月 2日(火) 17:00-19:00

平成31年度新入生説明会及び 意見交換会

場 所 島根大学医学部附属病院食堂「ラパン」

参加者 44名

将来の島根県の医療を担う地域枠、緊急医師確保対策枠、県内定着枠の入学生22名を対象にした新入生説明会および意見交換会を開催しました。島根県からは藤原孝行副知事、吉川敏彦健康福祉部長をはじめ島根の医療政策に関わる方々にご出席いただきました。藤原副知事、並河徹医学部長の学生を温かく迎えるメッセージに始まり、先輩学生からは、新元号「令和」に重ねて、同じ志を持つ仲間との存在と希望を与えるユーモア溢れるメッセージが送られました。



新入生一人ひとりが、島根大学を選んだ理由や医師になるための抱負を述べ、その顔は晴れやかで、これからの島根の医療を担っていく人材に期待が膨らみました。

5月 17日(金) - 19日(日)

第10回日本プライマリ・ケア 連合学会学術大会に参加しました

場 所 国立京都国際会館

地域医療支援学講座から2名、学生が6名参加しました。医学科5年生の島田直英さんが学生セッションでポスター発表をし、見事優秀賞に選ばれました。他の学生からも総合診療に関する素晴らしい発表がたくさんあり、とてもいい勉強になったという声を聞くことができました。島田さんのポスターは、みらい棟2階の地域医療支援学講座スタッフルーム掲示板に貼ってありますので、是非見に来てください。



6月 8日(土) 13:00-18:00

総合診療専攻医オリエンテーション 及び専攻医の集い

場 所 島根大学医学部みらい棟4階ギャラクシー

主 催 総合診療専門医育成ネットワーク
島根大学医学部地域医療支援学講座

共 催 島根大学 一般社団法人しまね地域医療支援センター

総合診療医にふさわしい日常病外来診療を行うことができることを目的として、令和元年度総合診療専攻医オリエンテーション及び専攻医の集いを開催しました。

出雲市民病院の上村祐介先生の進行のもと、指導医・専攻医・初期研修医が混ざる4グループに分かれ、3つのグラドルール(楽しむ、否定しない、参加者の顔を覚える)が設定され始めました。「ポートフォリオ作成についてのミニレクチャーとグループディスカッション」「専攻医による青



年の主張と題した3分間のプレゼンテーションとレスポンスカードによるコメント」「全員参加ディスカッションのクリニカルジャズ」「研修プラン&総合診療専門の魅力についてのグループワーク」が行われました。今年新たに専攻医になられた3名の先生はもちろんのこと、先輩専攻医や初期研修の先生にとっても、今後に向けて大きな成長をもたらすブラッシュアップの機会になったのではないかと思います。

▶ 地域医療セミナー ▶

4月15日(月) 18:00-19:30

総合診療の醍醐味

場所 みらい棟 2階 共通カンファレンス1
講師 総合医療学講座 講師
 大田総合医育成センター 木島 庸貴 先生
参加者 20名



概要

セミナーは木島先生が総合診療専門医として、これまで地域を診て扱う問題の広さや多様性等の経験値から語られる、メッセージ性の強い内容でした。19番目の基本領域の専門医として位置付けられた総合診療専門医の定義や何故必要とされるのかを、具体的に分かりやすくお話いただきました。

醍醐味とは「物事の本当の面白さや深い味わい」という意味がありますが、今まさに木島先生が感じていらっしゃる、学問としての総合診療の面白さや味わいを伝えて下さるものでした。また、最後に総合診療専門医になるために、学生時代の過ごし方の質問に対して、2つのメッセージが送られました。1つは、「物事の本質を追求する姿勢」で、疑問点をWEB上の表層情報だけで解決せず、深く考え追求することが、その後の診療の姿勢に繋がるというものでした。もう1つは「人との出会いを大切にすること」で、医師である前に人としての部分に触れて下さり、学生達の心に深く届いたのではないかと思います。

5月24日(金) 18:00-19:30

地域で総合診療を行うために必要なこと

場所 みらい棟 2階 共通カンファレンス1
講師 雲南市立病院 内科医長 遠藤 健史 先生
参加者 14名



概要

遠藤先生は自治医科大学を卒業され、現在雲南市立病院に勤務されて3年目を迎えられる総合診療医です。テーマは「地域で総合診療を行うために必要なこと」、その答えはセミナーの最初にありました。それは「“evidence”は“get”できる」必要な情報は自分で手に入れるというものでした。先生はどんな医療現場にいても、エキスパートの先輩に教えてもらうという受身の態度ではなく、何かの時に自分で調べることが出来る様にしておくことが、自らを高めていくことに繋がるとお話されました。

セミナーは、「発熱」を題材にどのように医療情報をとり、どう治療に繋がっていくのか、受講者参加型で進められました。問診時の「事実」を聞き取る情報収集ルールから、絞り込んでガイドラインの活用、そして診療支援二次ツール「UpToDate®」を起動し演習を行いました。最終アンケートには「今後の医療面接に活かそう」「UpToDate®や論文などで最新の情報を得ることの必要性が理解出来た」というような学生の声が多数寄せられました。

▶ ランチョンセミナー ▶

テーマ

学生のあなたに伝えたいこと

4月16日(火) 12:15-12:45

場所 みらい棟 2階 共通カンファレンス1
講師 島根大学医学部解剖学講座(神経科学)
 教授 藤谷 昌司 先生
参加者 37名



概要

平成31年度第1回ランチョンセミナーの講師は、平成30年4月に就任された解剖学講座の藤谷昌司教授にお願いしました。先生は、横軸を時間、縦軸に満足度(モチベーションの源泉、気分的高低差を含む)の人生グラフを用いて、ご自身の46年間を可視化する形で、4段階に分けてお話下さいました。プライベートを織り交ぜながら、子ども時代-医学生時代-研究者人生のその時々々の決断や支えてくれた人の存在、そこで得た掛け替えのないもの、そして最後に「人生を振り返って思うこと」と「自分の夢」をお伝え下さり、これからキャリアデザインを描く学生達に多くの示唆と動機付けを与えて下さったように思います。前任の兵庫医科大学ではベストティーチャー賞を受賞されており、先生の飾らないお人柄と話術に我々も魅了された素晴らしい時間でした。

5月31日(金) 12:15-12:45

場所 みらい棟 2階 共通カンファレンス1
講師 島根大学医学部腫瘍・血液内科
 助教 井上 政弥 先生
参加者 16名



概要

井上先生は、これ迄のご自身の仕事を8つのカテゴリに分けて、「大学病院という選択は悪くない」に始まり、「腫瘍内科・血液内科も悪くない」と、最後に医局PRを含めて大学の魅力を存分に語って下さいました。時代を彷彿させる入局時エピソードや大学という大きな組織の中で信頼できる仲間とともに仕事ができる事の充実感やネットワークの形成、最新の情報が得られることのメリットなど「悪くない情報」が満載でした。

また、先生は日本エイズ学会認定医で、HIVはもはや脅威ではなく、エイズが終息に向かおうとするこの時代に医師として立ち会えることの感慨も伝えて下さいました。キャリアを語られる先生の表情・口調にはお人柄が滲み出るものがあり、何度となく会場が笑いで包まれ、和やかな雰囲気の中にセミナーは終了しました。

フレキシブル実習の紹介

地域医療支援学講座では、島根の地域医療への理解を深めてもらうために、医学生自らが企画立案する自主企画型フレキシブル実習の窓口をしています。県内に限らず、県外の地域医療に関する医療機関に行くことも可能です。地域医療支援学講座HPに詳細を載せています。興味のある方は、お気軽にご連絡ください!



実習に参加した学生のこえ

医学科3年生 実習先:雲南市立病院

今回の先生方を見て、中山間部で地域医療を提供しながらでも、最新の知見や考え方を吸収し実践することは十分可能であることを学びました。逆に、最新知識から遠ざかりやすい地方で働くからこそ、新しいことに敏感になり、積極的に取り入れようとする姿勢が重要であると思いました。総合診療医はただでさえカバーする疾患が多いのに加え、患者の社会的立場等も考えて診療に当たらないといけないため、日々知識を取り入れること、考えることは多いと思います。総合診療医は、これからの地域社会にはなくてはならない存在になるといわれており、自分自身も今回の実習で強くそのことを感じたので、これからもこの分野の存在も意識しつつ日々の勉強をがんばっていきたいと思いました。



医師の使命

益田赤十字病院
院長 木谷 光博 先生

私は島根医科大学1期生です。島根医科大学は地域医療を充足させるため1県1医大政策で設置された大学です。…そのように教育されました。昭和57年に卒業しましたが、その時点では本学卒業生を受け入れてくれる病院は、他大学の関連病院のため、県内病院に私たちのポストはありませんでした。平成3年に益田赤十字病院に勤務できるようになったのも、たまたま他大学の医師の急な退職があったためです。

私は長期の入院療養を経験しました。その際にずっと考えていました。医師として復帰できたら自分の義務を果たしたい。優秀な部下も大学から派遣いただき、現在は院長として当院の経営を行っています。最近の後継者の育

成が必要と考え、教育に重点を移し医学生・研修医の皆さんにも医師としての義務を果たそうと話しています。医師の義務とはなんでしょうか？

緒方洪庵は、「病者に対しては ただ病者を診るべし 貴賤貧富を顧みることなかれ 学術を研精する他 ただ言行に意を用いて病者に信頼せられんことを求むべし 世間に対しては 衆人の好意を得んことを要すべし 学術卓絶すとも 言行厳格なりとも 齊民の信を得ざれば その施すによしなし。」「医の世に生活するは人の為のみ、唯(ただ)おのれをすて、人を

救はんことを希(ねが)ふべし」と言っています。ヒポクラテスの誓いもほぼ同様の事を示しています。洋の東西を問わず医の精神は同じなのだと思います。

赤十字原則は、人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性です。赤十字原則は私たちの進み道を示していると思っています。奉仕の精神を持って、世の中の求められる医療を行う事が必要と思います。よい医師になっていただけるように心から期待しています。



【益田赤十字病院】

〒698-8501
島根県益田市乙吉町イ103-1

教授就任あいさつ

平成の最終月でもある2019年4月1日より島根大学医学部地域医療支援学講座教授を拝命致しました。

浅学若輩のため身の引き締まる思いでいっぱいです。今後も前任の谷口栄作先生にご指導頂き、地域医療教育や地域医療支援に精進する覚悟でございます。皆様とともに、地域医療のあり方を模索し、企画を実践していきたいと思っております。

今後も島根大学医学部地域医療支援学講座へ、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



教授 佐野 千晶

新任のあいさつ

平成31年4月に島根大学医学部地域医療支援学講座特任助教に着任いたしました。これまで長年看護教育に携わり、看護師の養成を通して地域医療の現状と課題に向き合い、地域の皆様にも多くのご支援とご協力をいただく中で務めてまいりました。

地域医療支援学講座では、講座の使命と役割を十分に認識し、佐野新教授の下、その役割が少しでも早く果たせるよう、精進してまいります。地域医療を志す学生達に、継続的な質の高い学びの場で志が全うできるよう、微力ながら関わっていきたくと存じます。どうぞご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



宅野 真由美

今後の予定

◆2019年度第4回ランチョンセミナー

2019年7月9日(火)12:15~12:45 島根大学医学部みらい棟2階共通カンファレンスI
講師:飛田 博史 先生(島根大学医学部内科学講座肝臓内科 科長(兼)学内講師(助教))

◆2019年度第4回地域医療セミナー

2019年7月12日(金)18:00~19:30 島根大学医学部みらい棟2階共通カンファレンスI
講師:平原 佐斗司 先生(東京ふれあい医療生活協同組合梶原診療所 所長)

◆総合診療医ブラッシュアップ講習会

2019年7月21日(日)10:00~12:00 島根大学医学部講義棟1階国際交流ラウンジ
講師:田邊 一明 先生(島根大学医学部内科学講座内科学第四 教授)
齋藤 裕之 先生(山口大学医学部附属病院総合診療部 准教授)

◆総合診療専門医説明会

2019年7月21日(日)13:30~17:05 島根大学医学部講義棟1階国際交流ラウンジ
基調講演:齋藤 裕之 先生(山口大学医学部附属病院総合診療部 准教授)

◆2019年度第5回地域医療セミナー

2019年9月25日(水)18:00~19:30 島根大学医学部みらい棟2階共通カンファレンスI
講師:松本 賢治 先生(飯南病院 内科医長)

令和元年度
夏季地域医療実習

日程: 令和元年8月19日~8月23日
(内実習期間2泊3日・報告会1日)
※地区によって日程が異なる場合があります
実施地域: 松江・雲南・出雲・備前・浜田・益田・隠岐(島後・島前)
のうちのいずれか
費用: 島根大学医学部から各実施地区までの旅費は大学が負担します。
対象: 島根県の地域医療に興味を持つ医学生(大学・出身不問)
※現在参加者募集中!学務課にお申込みください。

詳しくは 島根大学医学部 地域医療実習 検索

編集 後記

今年も多くの新入生を迎え、新時代「令和」に突入しました。当講座にも新しい職員が入り、新鮮な気持ちで活動に取り組んでいます。これからまた暑くなっていくと思いますが、お体には気を付けてお過ごしください。

島根大学医学部
地域医療支援学講座

ホームページ

<https://www.communityshimane.jp/>

